

職員による自己評価

A環境、体制

- ・プログラムによっては、狭いと感じる時もある。
- ・事業所は身体障害の方が対応できる構造にはなっていないが、手すりや窓の柵などの安全管理は行っている。
- ・人員基準は、守りながらも利用数に応じて指導員を調整しながらも日によってバラつきがある。

B業務改善

- ・出来る限り、内外部の定期的な研修などを増やしてほしい。
- ・今後はホームページ等より自己評価や活動内容の会報など公開していきたい。

C児童への支援内容

- ・集団活動は充実しているが、利用者の来所時間によって個別活動が不十分な時がある。
- ・記録は毎日取ってはいるが、検証や改善については不十分である。

D関係機関との連携

- ・保育園や幼稚園、児童発達支援センターなどと連携を取る案件が今のところないが、必要であれば行っていきたい。
- ・社会福祉協議会等と今後連携をとっていく。

E保護者への説明責任・信頼関係

- ・父母会などは実際に行っていない。
- ・苦情の対応は迅速に行っている。

F非常対応

- ・非常時のマニュアルは作成済みで、避難訓練等は年に2回行っている。

保護者による評価

A環境面

- ・利用時間中に様子を見る機会がない為、十分なスペースが確保できているかはわからない。
- ・職員の配置数が少なく感じる時がある。

B児童への支援内容

- ・児童館との交流などは、必要と思わなくて、今のままでよい。
- ・障がいがない子どもたちとの交流は、短い時間の中だと難しいように思えます。

C事業所からの情報発信

- ・保護者会などは、事例がなくどちらともいえない。
- ・苦情等聞いたことがありません。

D非常対応

- ・非常訓練等の実施について、時々しか利用していないのでよくわからない。

事業所内での分析

【共通点】

- ・活動内容によっては、スペースが狭く感じる時がある。
- ・スタッフの数が少なく感じる時がある。
- ・保護者会などは、実施していない。
- ・苦情の周知が行われていない。

【相違点】

- ・身体障害の利用者を受けて入れており、手すりなど安全管理を行っている。
- ・避難訓練は年に2回行っている。
- ・緊急時の対応マニュアルの周知が出来ていない。
- ・保育園や児童発達支援センターと連携を取れていない。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・プログラムが曜日だけでなく、週ごとに内容を変更することで、常に新しいことに取り入れ、経験を積める。
- ・日々の生活の中から、皿洗い、掃除などの生活スキルや、集団活動からコミュニケーション力を身に付けていく。
- ・外出や体験、見学などから社会性やマナーなど体験、実践することが出来る。
- ・心技体に合わせたプログラム構成を行っている。

事業所の改善点

- ・利用者の状況やプログラム内容によってスタッフの配置を行う。
- ・保護者会など、保護者同士が関わりコミュニケーションが取れる機会を作る。
- ・保護者と常に連絡が取れる体制を作り、保護者と共に質の高い支援を行う。
- ・苦情や自己評価等をホームページや会報を活用して公表していく。
- ・定期的に充実した研修を行い、より質の高い支援が行えるように行う。
- ・保育園や児童発達支援センターとの連携が取れていない。

事業所の改善への取り組み

- ・利用者の利用状況や障害特性を再確認し、改めて配置数や配慮を検討していく。
- ・スタッフの確保、質の向上のために研修を計画的に実行していく。
- ・保護者会や事業所参観など保護者同士や事業所との連携を高めていく
- ・ホームページの活用により、自己評価や苦情を公表していく。
- ・半年に一度以上面談のほかに、必要に応じて電話対応や自宅訪問など行う。
- ・必要に応じて、学校や児童発達支援センターなどと連携を取り支援を行う。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・新たな発見や、見えていなかった部分が見ることができ、より質の高い支援を行うことが出来る。
- ・保護者と従業員の考え方の相違や共通を洗い出すことによって、事業所として必要なことが見えてきた。
- ・改善点だけでなく、改めて良い評価をたくさんいただき、良い支援をしてきたと従業員に周知できた。従業員とも、事業所としてもまだまだ良く出来る部分があり、それが子どもたちの未来につながっていくのだと実感した。
- ・子どもへの支援だけでなく、保護者や関係諸機関や地域と支援、協力を得ない良い支援が出来ないと痛感した。

事業所名 ひまわりキッズα

担当者 佐藤 睦子